



アサリなどの貝には目があるの

目があるカイと、ないカイがいる

カイは、アサリのような2枚貝、アワビのような巻き貝、ヒザラガイのような1枚の殻で岩に張りついているカイ、角のような形をしたツノガイの仲間などに、分けられます。

カタツムリも、じつは巻き貝の仲間です。カタツムリに目や触角があるように、巻き貝の仲間は、目や触角があります。巻き貝以外の貝の仲間は、目は、ほとんどありません。

自分でえさを探さないから、目はいらない

アサリの仲間の2枚貝は、たいてい目や触角をもっていません。この仲間は、ほとんど、水底の砂にもぐり、入水管と出水管を砂からつき出しています。呼吸するため水を吸いこむとき、プランクトンや水中にただよっている栄養分が、入水管からいっしょに入ってきます。それを、こし取って食べています。だから、自分で特にえさを探すわけではないので、目がなくてもかまわないといえます。

外とう膜のふちに、目がある

2枚貝の中には、イタヤガイや、ホタテガイと同じ仲間のツキヒガイなどのように、外とう膜のふちに、原始的な目をもっているものもいます。目といっても、明るさやかげを感じることができるていどですが、何かの影を感じると、さっと殻を閉じます。

2枚貝以外のカイは歯舌をもっている

2枚貝以外のカイの仲間は、ほとんど、歯舌(舌にヤスリのような歯がついている)をもっています。歯舌で、岩についた海そうをかきとったり、ほかのカイをおそって、肉をかじりとりします。これらのカイは、目や触角があります。(監修・安部 義孝)

